

## 内藤則邦先生記念号によせて

内藤則邦先生は、1958年4月に高崎市立短期大学より本学経済学部を迎えられ、以来1989年3月定年退職されるまで、31年の長きにわたって本学ならびに経済学部の発展に尽力され、学問の府としての本学の名声を大いに高めるために貢献されました。

先生は経済学部において長年にわたり社会政策論を担当され、また社会学部、法学部の講義を兼担して学生の教育に当られるかたわら、ゼミナール・大学院における研究指導を通じて、外国人留学生を含めて多くの研究者の育成に努められました。

また、この間、1968年4月より1969年3月までイギリスの工業都市に在るシェフィールド大学の客員教授として講義を担当されるかたわら、イギリスの労使関係の調査・研究を深められました。

先生のイギリス労働組合研究の成果は、なによりも『イギリスの労働者階級』（東洋経済新報社、1975年）に集大成されており、この著書は学界をはじめ関係方面の多大の注目を集めました。

この著書での先生の研究成果は、イギリス労働者階級に関する、それまでの研究水準を越える卓越したものであり、学界に対してもきわめて大きなインパクトをあたえるものでありました。

それまでの古い伝統をもつイギリスの労働者階級と労働組合に関する研究は、イギリス労働者階級の階級的立場、さらにはイギリスにおける資本蓄積に対応する労働者階級の立場を一般的な前提とした研究であり、現実の労使関係で果たしてきた労働者の行動を、この面から追求することにその主眼点が置かれていました。このためそれまでの研究はプロレタリアートという階級概念の一面的適用のもとで展開されるに止まり、労働組合の主体であるイギリス労働者自身の思考方法や価値観のイギリス的特質といったものが問われないうまま、また具体的実態にそくした実証分析による検証の手続きを十分に経ることなく、一般的ないしは抽象的な段階の研究に止まっていました。

しかし、先生は、複雑で多岐にわたる現実の労使関係についての根本的問題を具体的に明らかにされ、イギリスの労働者階級の社会的意識や彼らの人間類型といった問題を解明することによって、イギリス労働組合組織の主体の性格と、イギリス

社会の精神構造の特質を別出して、それをイギリス労使関係の分析の基本視点に据えられました。先生が本書で、ローレンス、オーウェル、アラン・シトラーらの文学作品を多く利用されているのもこのためであります。

先生はイギリスの労働者階級が、差別され、抑圧されることによって生ずる強い同類意識、仲間意識をもつが故に閉鎖的となり、このことが階級的意識の成長を逆に阻止しているというパラドックスの存在が、イギリスの労働運動の本質を解く「鍵」であることを、本書において見事に解明されました。

先生はさらに、日本における労使関係、労働組合運動に関連する諸問題の研究においても、優れた研究業績を数多く発表されています。こうした多方面にわたる研究成果は、学界はもちろん、関係方面の実務者のなかにおいても高い評価があたえられていることはいうまでもありません。

先生の学界および社会における活躍もまた顕著であります。先生は日本社会政策学会の会員として学会年報の編集委員、日本労使関係研究協会の会員として活躍されているのをはじめとして、埼玉県最低賃金審議会公益委員、日本労働協会派遣のイギリス日系企業労使関係調査団員などを歴任され、その豊富な学識と経験とを生かされると同時に、これまでの研究成果を国内、国外において実践されてまいりました。さらに、先生は現在勤めておられる多摩大学の新設にも尽力され、大学の基礎づくりに活躍されておられます。

このように研究者として、また、教育者として、学界ならびに地域社会において目覚ましい活躍をされ、とくに理論的研究と社会的実践の統一的方向で努力を傾注されてこられた先生の姿は、私ども後進のものにとって大きな励みとなっております。

立教大学は、先生の学術上、教育上の功績の顕著なことにより、1989年7月、先生に名誉教授の称号を贈りました。

いま、先生の定年退職を迎え、経済学部的发展に尽されました先生の御功績を永くとどめるため、本号を先生の記念号といたします。

先生のこんごの御健康と御活躍を祈念すると同時に、これまでと変わらぬ御助力を経済学部のために賜われますようお願いいたします。

1989年10月

経済学部長 丸 山 恵 也